

発病原因

宗門と分かれた頃の組織の混乱で黒岩部(支部)の男子部部長・副部長の信心が狂い、黒岩部の男子部は心理学による独自路線を取るようになった。

池田先生のスピーチに対する批判、宗門問題の創価学会の対応に対する根拠無き批判(「宗門問題は関西が動いていないからおかしい」などというデマ)、宗門側の活動家に対する賞賛(「根元明の題目の声は本当に素晴らしい、学会員も見習わなければいけない」という話の繰り返し)、県の大結集の会合をボイコット、人材G(青年創価合唱団)に対する誹謗中傷、「後輩はいじめて育てるのが心理学上正しい」という黒岩部の方針、などといった愚行が続けられ、私に対しては合唱団員という事でタバコによる嫌がらせが始まった。

この前後の頃に岩志水部長と長島副部長(当時)からの受動喫煙により平成1、2年?3年?ごろ発病した。

受動喫煙により私は嘔吐や不眠の症状が出たのだがそれでも喫煙をしつこく繰り返された。

長島副部長は私の地区のB長になり、協議会終了後毎回タバコ煙を私に浴びせ続け数年にわたり私の病状を慢性化・悪化させた。

悪化・慢性化原因

発病してすぐにきれいな空気の環境で過ごす事ができれば、この病気は容易に完治できる。

慢性化すると治療が困難になる。

先の愚行により黒岩の活動家はほぼ壊滅したが、私が折伏した部員さんからのタバコ煙から2年ほど逃げられずにいた。又、長島B長から週に一度協議会終了後に受動喫煙を強いられた(10年)

北条君が部長になり大島君が地区リーダーになり、車中での煙への暴露、拠点での喫煙は繰り返された。(病状は若干悪化)

私が部長になると井上さんが本部長になり、過去に極楽寺部長(教育部)が組織内に流布していた私に対する誹謗中傷の作り話を信じ込んでいた為井上さんは私を徹底的にいじめ未来部の活動を妨害し、タバコについても何度も断ったにもかかわらず車中や拠点で喫煙し続けた(病状は悪化)

その後、市議会議員候補大村G事務所に、3度断ったにもかかわらず事務所は禁煙とだまされ私は無理に事務所のスタッフにさせられ、私以外全員(4名)からの受動喫煙に毎日夜明けの3時くらいまで

晒され続け（休日は昼間から夜中まで）嘔吐と不眠、過食、が続き逆流性食道炎の発作に毎日苦しみ脂汗を流しながら事務所でもがき丸くなって痛みを耐え続けたにもかかわらず「タバコをやめてもらえんと思っていましたんでしょ。吸うんですよ！」などという間違っただ指導があり、その半年間で病状は一気に悪化した。

私の目の前の席には井上さん（先の本部長）が座り、「ああ、タバコ吸うとやしのみさんにまた怒られる～」などとふざけた態度でタバコ煙を酷く浴びせ続けた。

又、何年も北条君に体調悪化について説明し続けていたにもかかわらず事務所で私の隣の席で北条君が数回喫煙した。

そればかりか過敏症の症状である「離脱症状」（汚染空気を吸った後、異常な過食が止まらなくなる。特定の食物への依存が始まる）に私が自分で気がついたので、事務所で何度も北条君に説明し喫煙を止めるよう頼んだにもかかわらず無視し、かえって「事務所でおかしな食生活をしている」などという話に捻じ曲げられ、なので統一地方選終了後にはその話を元に大島君（当事、部長になった。~~今年~~2008年9月人事で新しい区の男子部長になった）から何度かだまされ呼び出されては車中で喫煙され、又は喫煙直後に接触され、その度に

体調が悪化し、私をだました事を指摘しても「事務所で異常な食事をしていたと北条君から聞いている」などと話をそらされ、私をだました事に対する謝罪は一度も無く、統一地方選終了後もさらに受動喫煙にさらされ続けた。又、そのような話を聞いていた N という O の地区リーダーが私の自宅等に喫煙の為に通い詰めるようになり、何度断っても訪問され続けた。この大島・N 両名による受動喫煙によりさらに悪化。

色々な事が重なり、とうとう仕事もまともにできない、取り返しのつかない病状にまで悪化してしまった。

この病気は「短期」であれば容易に治療できるが「長期」の患者は治療が困難である。

転地治療（空気のきれいな所に数ヶ月居住する）という方法も長期の患者には効果が無く逆に社会復帰を困難にしてしまう。又、北里病院より、過敏状態が治ってもタバコにより体調が悪化するの当たり前、等と指導されており、加療してもタバコ煙による体調悪化は続くものらしい。

私に受動喫煙を強いた 8 名は創価班員。

北条清君は現在〇の〇〇長である（2009年に県青年部長になったとの事）が、私からの病状の連絡を無視し謝罪も無く組織への事故の報告も一切行わない。それどころかふざけたメールを私あてに送りつけて来るなど、狂った対応をとる。

それでも私は私個人の事故については無く、これからの組織の為、特に未来部の為にタバコの情報を流したのだが、組織への反逆と受け止められたらしく、男子部組織からの締め出しが始まり、私が次期少年部長に酷い事をしたなどという事実無根の狂った指導が（前）県青年部長から行われ、ついに私は男子部内で信心が狂っている事にされ私と連絡を取らないようにという話も流されてしまったらしい。

そして私の母と共に区の婦人部長（市議会議員の妻）へ婦人部小グループの喫煙防止の要望を出し（2008年6月等）たにもかかわらず、現在（2010年4月）になっても何らの対応をされていない。（私の地元の婦人部小グループでの会合では灰皿が机の中央に置かれていて喫煙しながらの会合が行われていた為！この件、私が嘘つきなどと言われているが会合中の喫煙は母もこの地区婦人部長もしっかり記憶している）

ある地区の婦人部長さんに現状をメールしたところ「愚痴は身を滅ぼす」などと返信が来たのだが、喫煙については多くの人に興味と知識を持ってもらわなければ沢山の人材が潰れていってしまうのにどうして私が愚痴で身を滅ぼす事になるのか、全く理解できない。

現状に目をつぶるのではなく、前向きに、受動喫煙防止への方策を沢山の方々に考え続けていって欲しい。私の病気を、受動喫煙防止と未成年喫煙の防止に生かしていって欲しい。

私が組織内で病気になったからといって、組織で無視をしたり反逆者の汚名を被せたり、「愚痴は身を滅ぼす」等と言いながら現状に目を背ける事は止めて欲しい。

又、このような事態になっても事故報告を一切行わない北条君（県青年部長）の責任は重大であると考えます。彼には組織内で受動喫煙防止・禁煙推進の指揮を率先してとっていく責任がある。

さらにあえて言うならば、宗門と分かれた当時、黒岩部の男子部部長・副部長の信心が狂い部の男子部組織を壊滅させ、事実無根の誹謗中傷を創価学会組織内に流布させ続けた人物が居たにもかかわらず、私が組織破壊に関する情報を流しても周囲が一切無視し詳しい調査も行わなかった事、当時の周囲の方々はどう責任を取るつもり

か知らないが、「与同罪恐るべし」である。とりあえず、不正統監を
まず止めたらいかがだろうか。

蛇足ではあるが、この報告についてもし些細な内容の相違・矛盾が
あったとしても、批判は受けたくないと感じている。

特に、何らの対応も自ら取らなかった方々、私が今回行ったこと
について不満があるならば、どうして組織が破壊されていた当時、何
らの対策も詳しい調査も行わなかったのか。私は当時から周囲の多
くの方々へ種々の報告を続けていたのでありそれを知らないとは言
わせない。

少しでも内容に間違いがあると困るようなら、自分たちが当時事実
を調査していればよかったのである。

10年以上も事態を放置し続けた事への責任を少しは感じたらいか
がだろうか。周囲の方々の行動があれば私がこのように行動しなく
ても済んだのであり、調査報告を実施しない方々から些細な事実の
相違まで批判されるのではたまらない。

ついには黒岩支部の男子部組織から地元出身の部長も地区リーダー
もいなくなってしまうにもかかわらず、破壊の現実を目にしてさ
え、当時破壊を容認していた方々から何らの反省の声も上がってこ

ない事、私には恐怖にさえ思える。私は当時、数度にわたり暴力も受けていたが、それを話したところ婦人部からゲラゲラと笑って相手にされなかったことも有るが、暴力容認の全く恐ろしい組織である。

誰からも反省の声が上がらないので、黒岩支部の組織の改革は進むわけが無く、いつまでたっても暴力容認の体質は変わらないであろうと思われる。